

バンコク日本人学校（中学部）における国際理解学習の実践

前泰日協会学校（バンコク日本人学校）教諭

岐阜県加茂郡川辺町立川辺中学校 教諭 宮本 覚

キーワード：在外教育施設、バンコク、国際理解学習、現地理解学習、中学校

1. はじめに

タイの人々はとても親日的であり、日本に対してとても友好的である。タイでは、どこから来たかと聞かれ「イーブン（日本）」と答えると、タイの人は微笑みながら TOYOTA、HONDA、味の素、などの日本の会社や製品をあげ、フレンドリーに話してくれる。街の通りを走る車は日本車が多い。日本の企業の看板も至る所で目にする。

特に私が住んでいたバンコクでは、多種多様な日本の食材や品物を手に入れることができ、日本でよく目にする日本食レストラン、百円均一ショップなど小物・雑貨を売る店なども多く、今も続々と開店している。日本の地方都市よりもバンコクの方が日本全土の料理が食べられると言っても過言ではないほどである。

このような「微笑みの国タイ」に3年間赴任し、数多くのことを学び経験した。ここでは、赴任校のバンコク日本人学校の国際理解教育について報告する。

2. バンコク日本人学校

バンコク日本人学校（泰日協会学校、THAI-JAPANESE ASSOCIATION SCHOOL）はとても歴史が古く、児童生徒数は約3000人の超大規模校である。私は、3年間とも中学部に所属し、中学2年生を担当した。教科は理科を担当した。バンコク日本人学校のカリキュラムは、日本の学校とほとんど同じであり、唯一タイ語の授業が週1回あることが異なっているだけである。タイ語の学習はタイ国の法律により定められており、生徒たちは日常会話を中心に学習している。

学校から一歩外に出れば、外国、つまり、日本ではない。当然タイの人と接する機会が多い。従って、タイで生活するには簡単なタイ語の習得が必要である。しかし、生徒たちとの生活から感じたことは、タイ語を学習していてもタイの人と積極的にかかわっている生徒が多くないことである。これから益々国際交流が必要となってくる時代に、将来を担う生徒達には「日本ではない、海外に居住している」ことの利点を活かすこと、つまり、国際理解学習、特にコミュニケーション能力を高めることが重要であると感じている。

(1) 国際理解学習

平成27年度、バンコク日本人学校中等部2年生の国際理解学習のテーマは『CATCH MY DREAM ～限りない大きな世界へはばたけ～』である。このテーマに沿って年間で3つの活動を企画し、実施した。

① 日系企業への職場訪問・体験学習

タイのバンコク周辺にある日系の民間企業への職場訪問・体験学習を実施した。現在、タイへは日本の政府の援助や協力が為されている。それに加えて多数の民間企業が進出し、投資している。このような社会的背景の中、生徒の保護者のほとんどはタイの企業やタイへ進出してきた日本企業で働いている。しかし、多くの生徒が保護者の仕事内容を知っていたり、実際にこれらの企業を訪れたりする生徒は希であるのが現状である。そこで、働くことの意義や自己の適性を考えて進路選択の参考にするというキャリア教育の内容に加え、民間企業とタイとの関係や海外で働くことの大切さ、厳しさを実感し、夢をもち自分の将来や自分の生き方について考えるきっかけにするために、職場訪問・体験学習を実施した。

② マナー講座

学習に先立って、JALバンコク支店の方を講師として招き、「社会人として大切なこと、働くことの意義」と

いう演題で働くことの意義ややりがい、国際人として振る舞い等について講義を受けた。

③職場訪問・体験学習

JAL、タイ竹中、バンコク病院、マックスバリューなどの13事業所を訪問し活動を行った。当日は、事業所の方の話を聞き、見学し、様々なことを体験した。その職種の専門的なことだけでなく、仕事のやりがいなどや海外に進出する利点・問題点などの説明も聞くことができた。



タイ竹中（施工班）

生徒の感想

JALや客室乗務員についてたくさんのことを調べたり、職場訪問に行ったりして、私は今までで一番将来のことについて考えました。今回、本物の客室乗務員の方の話を聞き、思った以上にハードな仕事だと分かり驚きました。客室乗務員になるのはとても難しいことを改めて知ることができました。

日本航空（バンコク訓練センター）に訪問

(2) 現地理解学習（タイの大学生との交流）

ムアンポーラーンにおけるタイの大学生との班別交流学习の実施を計画した。ムアンポーラーンとは、タイ各地の建物や仏像などのレプリカが建造されているテーマパークである。この施設を泰日工業大学の学生と一緒にコミュニケーションを取りながら班別に見学をする交流学习を計画した。



ムアンポーラーン班別交流学习

生徒は事前に計画を立てて、その計画を基に大学生の意見も聞きながら施設を巡った。大学生とコミュニケーションをとるには、タイ語や英語、日本語、ボディランゲージが必要である。生徒達は、戸惑いながらも試行錯誤しながら、大学生に建物やタイでの生活について質問していた。また、チェックポイントでは、日本やタイに関する問題を相談しながら答えていた。この学習では、タイの文化や歴史をより詳しく学ぶことができたと同時にコミュニケーションを積極的にとることができた。これから世界で活躍する国際人をめざす生徒にとっては特に非常に重要な経験、学習になった。

生徒の感想

私がムアンポーラーン班別交流学习で学んだことはコミュニケーション力です。私はこれまでの交流会で自分からタイの人に話しかけたことはありませんでした。それは、ちゃんと伝えられるか不安だったからです。しかし、今回の交流会では自分から話しかけると決めて大学生に話しかけました。ちゃんと伝わったか分かりませんが、笑顔で返してくれたときは本当に嬉しかったです。公園内を回っている時もジェスチャーなどで伝えることができて良かったです。

(3) シンガポール修学旅行

①平和学習

事前学習として、シンガポールにあるチャンギ刑務所博物館を訪れる際に、生徒が平和のことを考えるための予備知識、シンガポールの歴史や文化についての授業を行った。特に第2次世界大戦時の日本の広島や長崎のこと、シンガポールと日本との関係、歴史的背景について学習した。また、チャンギ刑務所で平和セレモニーを行う際に千羽鶴を奉納するために生徒一人ひとりが平和への願いを込めて鶴を折った。

チャンギ刑務所博物館では第二次世界大戦当時の刑務所の様子の展示から、旧日本軍が行ったことや戦争の悲惨さなど、日本の加害者としての立場から見たありのままの歴史を知ることができた。捕虜となった様々な国の人々のこと、私たち日本人のしたことを知り、平和の尊さを考えるよい機会となった。

生徒の感想

展示物の内容から、日本がシンガポールを含め、連合国にひどいことをしたことがよくわかった。戦争は二度と起こしてはいけないと改めて思った。平和な世の中にするために何か自分でできることを行いたい。

②シンガポールの大学生との交流

シンガポールへの修学旅行で現地の大学生との交流〔B&S (Brother & Sister) プログラム〕を行った。

最初、自己紹介は事前に考えていたのでスムーズに行われたが、計画の最終決定は英語で表現できない生徒が多く、戸惑っているようだった。しかし、一緒に行動する間にだんだんコミュニケーションが取れるようになってきた。

活動時間は8:40～14:30と約6時間という長い時間であったが、大学生とは英語、日本語、身振り手振りで会話し、施設を見学したり、一緒に店で買い物をしたり、昼食をとったりして、コミュニケーションを積極的にとり、楽しく活動することができていた。

生徒の感想

修学旅行で1番心配だったことは「大学生と英語でコミュニケーションをとり、行きたいところを伝えられるか」ということだった。昼食後に行きたいところを英語で伝えた。伝わった。とても嬉しかった。その後は少しずつだが英語も交えての会話になった。今回の活動で、英語をどれだけ知っているかではなく、伝えたいという自分の気持ちこそが大切だということ学んだ。

3. 国際理解学習を通して

職場訪問・体験学習、現地理解学習、シンガポール修学旅行などの活動を通して、居住地、国籍、言語、文化などが異なる多様な人々とのコミュニケーションをとるためには、言語の習得が一番ではあるが、言語のみに頼らず、身振り手振りも交えて自分の考えを伝えようとする心が大切であることに改めて気づくことができた生徒が多かった。また、海外に進出している日系企業への訪問を通して、民間企業とタイとの関係や海外で働くことの大切さ、厳しさを実感し、生徒自身が自分の将来や生き方について考えるきっかけになった。

これらの経験が生徒たちの視野を広げ、将来、積極的に世界中の人々とコミュニケーションをとることができるようになることを願いたい。また、バンコク日本人学校から、将来、国際的に活躍する人材が育つことを期待したい。